

令和8年度

シ ラ バ ス

SYLLABUS

理学療法学科1年生



健祥会学園
KENSHOKAI GAKUEN

目 次
カリキュラム

基礎分野(理学・作業療法学科)

人間関係論.....	1
ユニバーサルスポーツ	2
情報科学	4
健康増進科学.....	5
英語コミュニケーション(English Communication for Nursing Students).....	6
総合科学	7
保健社会行動学	9

専門基礎分野(理学・作業療法学科)

解剖学Ⅰ	11
解剖学Ⅱ	13
生理学Ⅰ	14
生理学Ⅱ	16
運動学Ⅰ	18
人間発達学.....	20
病理学.....	21
リハビリテーション工学.....	22
老年医学	23
臨床心理学.....	24
リハビリテーション医学.....	25
リハビリテーション概論.....	27
地域保健医療福祉論.....	28
社会保障経済学	29

専門分野(理学療法学科)

理学療法概論	30
基礎理学療法学Ⅰ	31
基礎理学療法学Ⅱ	33
理学療法評価学Ⅰ	34
理学療法評価学Ⅱ	35
基礎理学療法治療学.....	37
老年期障害理学療法学	38
スポーツ障害理学療法学.....	39
見学体験実習	40
基礎評価実習	41

基 礎 分 野

理学療法学科

作業療法学科

【科目名】人間関係論

【教員名】藤井 奈美

【教員の実務経験】有

■無(理学療法士免許及び経験を有する教員がその経験を活かし、必要な学習方法などについて教授する。)

【授業方法】■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・1年・前期

【必/選・単位数(時間数)】必修・2単位(30時間)

【授業概要と目的】人間関係論とはなにか、一般的人間関係と医療従事者の人間関係について学び、よりよい人間関係の構築方法を学ぶ。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

1. 他者との信頼関係を構築し、それを継続することができる。
2. 医療職としての信頼関係の構築方法を学び、説明することができる。
3. 学んだ内容を実践して、生活の場や臨床現場で活かすことできる。

【教科書】なし(必要に応じて資料を配付する)

【参考書等】資料配付

【成績評価】定期試験 小テスト ■課題レポート(50%) ■その他(発表 50%)

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	人間関係論とは	人間関係論について知る	藤井 奈美
2	絆を深める	クラスメイトを知る	〃
3	チームワーク	協力の重要性を学ぶ	〃
4	〃	〃	〃
5	人間関係を構築する方法	よりよい人間関係をつくるために必要なこと	〃
6	〃	社会人として必要なマナーを身につける	〃
7	社会人基礎力	「チームで働く力」について考える	〃
8	〃	「前に踏み出す力」「考え抜く力」について考える	〃
9	医療従事者のスキルを磨く	理学療法士を目指す学生に必要なコミュニケーションスキルを磨く	〃
10	〃	健常者だけでなく障がい者や障がい者スポーツに必要なコミュニケーションスキルを演習を通して学ぶ	〃
11	〃	医療面接スキルを身につける	〃
12	〃	ラポール関係形成スキルを身につける	〃
13	〃	質問スキルを身につける	〃
14	〃	実践と評価	〃
15	まとめ	授業で学んだ内容の実践経過をまとめて発表する	〃

【授業時間外の学習】授業後はその日のうちに復習を行い、講義で学んだ内容の実践に心がける。予習及び復習に各30分程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず指定された教科書及びタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】毎水曜日17時から17時30分(本館事務室前)

【科目名】ユニバーサルスポーツ
 【教員名】宮本 實、中西 広大、松浦 康
 【教員の実務経験】有

■無(日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格を有し、種別・年齢層も幅広く指導を行っている。ゲートボールにおいても指導者及び審判資格を有しての長年の活動経験及び教育現場の指導経験を活かし、臨床現場において実践的に役に立つ授業を実施する。スポーツ理学療法分野で実務経験のある理学療法士の教員がその経験を活かし実習を行う。)

【授業方法】講義 演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・作業療法学科・1年・前期

【必/選・単位数(時間数)】必修・2単位(30時間)

【授業概要と目的】ゲートボールは健祥会の「会技」であり、スポーツとしてだけでなく規律を重んじ、人びとに接する時の接し方を含めた授業とする。地域の高齢者と、ゲートボール交流大会を行い話し合いの場を持つことを目的とする。後半に幅広いスポーツを知るために、障がい者スポーツについての講義と実技を実施。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

1. ゲートボールを通じて高齢者と会話する糸口となる。
2. スポーツに限らず全てにおいて礼に始まり礼で終わる規律を理解する。
3. ゲートボールでチームワーク・コミュニケーションの大切さを理解する。
4. 私の就業経験を伝達することで実社会の規律を身につける。
5. 集団競技や障がい者スポーツを知り、実践することによりチームワーク・コミュニケーションの大切さを理解する。
6. 障がい者スポーツの指導上の留意点と工夫を知る。

【教科書】適宜資料配付

【参考書等】

公益財団法人日本ゲートボール連合発行：公式ゲートボール競技規則 審判実施要領 2015. DVD他
 中村太一著：Q&A・上達ハンドブック①・②・③・④・⑤・理想の一手他

【成績評価】■定期試験(80%) 小テスト ■課題レポート(欠席者のみ) ■その他(実技 20%)

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	ゲートボールとは	講義 ゲートボール競技のあらまし ビデオを観戦してルールとマナーを知る (挨拶・握手・有難う)	宮本・中西
2	ルールの詳細	実技 ゲートボール競技とはどのような競技かを コートで実践してみる	〃
3	〃	講義 ゲートボール競技のルールについて説明 実技 実戦でプレーをしながら、ルールを覚えながら 感覚をつかむ①	〃
4	〃	実技 実戦でプレーをしながら、ルールを覚えながら 感覚をつかむ②	〃
5	〃	講義 ゲートボール競技のルールと諸規程(ドーピング 検査説明含む) 実技 紅白に分かれて試合形式の流れを知る	〃
6	〃	実技 審判員のジェスチャー・セレモニーの仕方を実戦 で覚える①	〃
7	定期試験模擬 審判員について	講義 ゲートボール想定問題集の解説 実技 審判員のジェスチャー・セレモニーの仕方を実戦 で覚える②	〃
8	審判員の仕方	実技 審判員と競技者に分かれて審判の仕方及び競技 者のマナーを覚える	〃
9	交流大会	実戦 地域の方々との交流の中でコミュニケーションを 図り、指導・アドバイス等を学び、ゲートボール の面白さを覚え、今後の活動に活かす①	〃
10	〃	実戦 地域の方々との交流の中でコミュニケーションを 図り、指導・アドバイス等を学び、ゲートボール の面白さを覚え、今後の活動に活かす②	〃

11	スポーツ紹介	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質	松浦 康
12	〃	障がい者スポーツの意義と理念	〃
13	演習	障がい者スポーツ実施時の安全管理	〃
14	〃	障がい者スポーツの指導上の留意点と工夫①	〃
15	〃	障がい者スポーツの指導上の留意点と工夫②	〃

【授業時間外の学習】 その日のうちに復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに、その内容を自分なりにノートにまとめておくこと。予習及び復習に各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 講義中は教員の指示に従い、自他への損害を与えないことに注意を払う。講義中の私語・勝手な行動については厳しく指導する。実技は運動着を着用し、準備・片付けも含め積極的に行うこと。物品の管理について、報告・連絡・相談を徹底すること。

【オフィスアワー】 松浦：毎水曜日 17時から17時30分まで(本館事務室前)

【科目名】情報科学

【教員名】池住 祐哉

【教員の実務経験】 有

■無(教育実績をもつ教員が、臨床現場において実践的に役立つ授業を実施する。)

【授業方法】 ■講義 ■演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科1年・前期

【必/選・単位数(時間数)】必修・2単位(30時間)

【授業概要と目的】現代社会において、PC及びインターネット等の利用は欠かせず、機器の発展と同じく利用率も向上している。その為、本学で導入しているタブレットの使用方法をはじめOffice系ソフトの基本的使用について課題を交えながら学ぶ。さらに情報処理や各種書式の作成についても合わせて学ぶ。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

1. タブレットの基本的な操作方法が理解でき使用する事ができる。
2. Office系ソフトを使用し、レポート作成・プレゼンテーションができる。
3. 臨床実習におけるレポートの作製や、メール送信についての文法等を学ぶ。

【教科書】なし 適宜資料配信

【参考書等】なし

【成績評価】 定期試験 小テスト ■課題レポート(100%) その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	個人情報	個人情報保護、インターネットの使用方法	池住 祐哉
2	情報リテラシー	情報の取り扱い方について	〃
3	オリエンテーション	タブレットの初期設定(パスワードの設定等)	〃
4	〃	タブレットの初期設定(アカウントの設定等)	〃
5	〃	その他アプリケーション・管理方法について	〃
6	ロイロノート	ロイロノートスクールの使用方法①	〃
7	〃	ロイロノートスクールの使用方法②(模擬演習)	〃
8	Web ミーティング	Microsoft teams・Zoom	〃
9	Office系	Windows Office Outlook(メール作成の方法)	〃
10	〃	Windows Office Word(レポートの作成)	〃
11	〃	Windows Office Excel	〃
12	〃	Windows Office PowerPoint(プレゼンテーション)	〃
13	〃	Windows Office PowerPoint(発表)	〃
14	レポート作成	Windows Office まとめ	〃
15	〃	Windows Office まとめ	〃

【授業時間外の学習】なし

【履修条件・注意事項】配付されたタブレットは、外部への通信使用ができるものとして注意が必要であり、誤った使用方法に対して指導を行う。また、自身が設定したアカウント・パスワードの取扱いには細心の注意を要する。講義では、必ず配付されたタブレットを持参すること。

【オフィスアワー】毎水曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

【科目名】健康増進科学

【教員名】北田 功

【教員の実務経験】有

無(理学療法士免許及び経験を有する教員が、健康増進に必要な医療的内容に関する講義を行う。)

【授業方法】講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・1年・後期

【必/選・単位数(時間数)】必修・2単位(30時間)

【授業概要と目的】患者、もしくは利用者を対象としたとき、理学療法士はその身体を使い、自らの理学療法を施行する。いかなる場面であっても、自己の健康を管理する能力が求められる。運動を指導する立場のものは自らが実践者でなければならない。この講義では自らの身体を使い、運動を処方し、実践する。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

1. 自らの身体を通し健康を理解し、科学する手法を獲得できる。
2. グループ活動において各役割を担うことができる。
3. グループ発表において知識を共有することができる。

【教科書】なし

【参考書等】日本体力医学会体力科学編集委員会：運動処方の指針 第8版. 南江堂, 2014.

【成績評価】定期試験 小テスト 課題レポート その他(課題発表 100%)

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	健康とは	人の健康について理解を深める。	北田 功
2	健康増進とは	日常生活における生活習慣と健康との関係性について理解を深める。	〃
3	〃	健康維持・増進するための方法について理解を深める。	〃
4	健康と理学療法	理学療法士の研究活動とは。論文解説。	〃
5	〃	テーマを決め、文献を検索してまとめる。	〃
6	〃	まとめた文献についてグループディスカッションを行う。	〃
7	健康増進事業について	健康増進事業について理解を深める。 (グループワーク)	〃
8	〃	どのような健康増進事業があるか知る。 (グループワーク)	〃
9	〃	健康増進事業をまとめる。 (グループワーク)	〃
10	〃	発表	〃
11	健康増進の方法	健康の増進のための方法(主に運動)について理解を深め、実践する。(グループワーク)	〃
12	〃	計画書作成(グループワーク)	〃
13	〃	計画書作成、準備(グループワーク)	〃
14	〃	実践(グループワーク)	〃
15	〃	振り返りと改善点を行い、再検討を行う。 (グループワーク)	〃

【授業時間外の学習】授業実施日に復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容を自分なりにノートにまとめておくこと。課題レポートの学習を行い経験したことをまとめる。予習及び復習に各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず指定された資料及びタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】毎木曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

【科目名】英語コミュニケーション(English Communication for Nursing Students)

【教員名】Daniel Frost

【教員の実務経験】有

無(The latest knowledge need to be acquired through literature written in English. Having great achievements in education, I give you practical lessons, using his experiences, which are sure to be useful on the clinical spot.)

【授業方法】講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位(30時間)

【授業概要と目的】Practical English for Rehabilitation and Nursing.

【到達目標】To give students conversation tools for their careers and life opportunities.

【教科書】資料配付

【参考書等】資料配付

【成績評価】定期試験 小テスト(20%) 課題レポート

その他(presentation 40%)(class 40%)

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	Introductions	Introduction of class	Daniel Frost
2	〃	About me - Likes, Dislikes, Favorites	〃
3	Questions	Be, Do, can, questions	〃
4	〃	Wh- questions	〃
5	Descriptions	Using Adjectives	〃
6	〃	Talking about people	〃
7	Test	Questions and Descriptions	〃
8	Expansion	Nursing vocabulary	〃
9	〃	Situations, Conversation Manners	〃
10	Scenario	Blood Tests	〃
11	〃	Vital Sign	〃
12	〃	OT/PT specific scenarios	〃
13	Final	Preparation for English Presentations	〃
14	〃	English Presentations	〃
15	〃	English Presentations	〃

【授業時間外の学習】Please use any opportunity to try improving your English, listening as well as speaking. You need for each around two hours for preparations for lessons and a review.

【履修条件・注意事項】Active participation and individual efforts in class will be reflected in the final grade.

【科目名】総合科学

【教員名】羅 成圭、佐尾山 晴実

【教員の実務経験】有

■無(教育実績を持つ教員が、基礎医学と国語表現について教授する。)

【授業方法】■講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科、作業療法学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位(30時間)

【授業概要と目的】私たちをはじめとした生物は生きていますが、そもそも「生きる」とは何でしょうか？「生きている」とはどのようなことなのでしょう？普段見過ごしてしまいがちなこの疑問に対し、皆さんと共に考えることで、医学の基礎となる生理学や解剖学の学修の基盤を創ることを目的としています。

- ・国語の表現の特色、語句や語彙の成り立ち及び言語の役割について理解を深める。
- ・情報を収集、整理し、言葉遣いや文体など表現を工夫して話したり、書いたりする。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

- ・生きるために我々生物が行っている様々な活動の概要を理解する。
- ・生物の多様さと複雑さを理解する。
- ・生理学、解剖学を学ぶ上での基盤としての基礎知識を習得する。
- ・日本語の語彙を増やし、自分の考えを論理的に述べるができる。
- ・敬語を正しく使い、目的や場に応じた表現ができる。
- ・目的に応じた効果的な文章を書くことができる。

【教科書】必要な資料は適宜プリント等で配付する

【参考書等】辞書(手持ちのものでよい)

【成績評価】羅 50点 定期試験 ■小テスト(50%) 課題レポート ■その他(ミニレポートを提出し、その記述内容の充実度により総合的に評価する。)(50%)

佐尾山 50点 定期試験 ■小テスト(50%) ■課題レポート(50%) その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	細胞(生物の最小単位)	全体の概説、生物の定義、細胞の中身と種類	羅 成圭
2	代謝(生物の化学反応)	酵素、呼吸、ATP	〃
3	殖える(生物の複製)	クローン、ウイルス、幹細胞	〃
4	遺伝	身近な遺伝について理解する	〃
5	DNA(生物の設計図)	ゲノム、設計図の読み方	〃
6	血液と循環	免疫、抗原抗体反応、ホルモン、循環器	〃
7	骨格筋	筋肉の構造と役割	〃
8	言語事項	漢字の成り立ち、音訓、送り仮名、同音異義・同訓異字について学ぶ	佐尾山 晴実
9	〃	類義語・対義語・四字熟語について学ぶ。	
10	〃	慣用表現を学ぶ	〃
11	〃	敬語表現を学ぶ	〃
12	表現	原稿用紙の使い方、話し言葉と書き言葉、文体統一について学ぶ	〃
13	〃	簡潔な表現にするための基礎練習	〃
14	〃	六百字で文章を書く	〃

15	表現	添削された文章を清書して完成させる 級友の優れた作品を味わう	佐尾山 晴実
----	----	--------------------------------	--------

【授業以外での準備学習の具体的な内容】 レポート課題の準備をしてくること。予習及び復習に各1時間程度を要する。

【履修にあたっての留意点】 忘れ物のないようきちんと準備をして出席すること。

【科目名】保健社会行動学

【教員名】三宅 雅史、藤原 範子

【教員の実務経験】 有

無(医師免許もしくは看護師免許及び経験を有する教員(三宅、藤原)が講義を行う。)

【授業方法】 講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学・作業療法学科・1年・前期

【必/選・単位数(時間数)】必修・2単位(30時間)

【授業概要と目的】

- ・社会構造や関係が健康関連行動や健康生成に影響するメカニズムについて学習する。
 - ・公衆衛生学全般について、基礎的な内容を広く教授する。保健統計、疾病予防や健康管理、環境保健、地域保健、母子保健、学校保健、産業保健、高齢者保健などについて講義を行う。
- 公衆衛生全般について学習することは、高齢社会に突入したわが国におけるPT・OTの役割や必要性、位置づけを理解する上で重要である。

【到達目標】

- ・健康に関わる多くの社会問題や保健行動を理解し、医療従事者として、どのような支援が健康へつながるかを理解し、説明ができる。
- ・PT・OT等の医療福祉分野の専門職を目指す人は、地域の人々の健康状態を客観的にとらえ、問題点を正しく認識した上で、関連職種と連携して活動する必要がある。そのために、高齢社会に突入したわが国における公衆衛生の現状について理解し、パブリックヘルスマインドを身に付ける。

【教科書】

松本千明著：医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 生活習慣病を中心に 第2版. 医歯薬出版, 2024.

清水忠彦・佐藤拓代編集：わかりやすい公衆衛生学 第4版新装版. ヌーヴェルヒロカワ, 2026.

【参考書等】

畑栄一, 土井由利子編：行動科学 健康づくりのための理論と応用 改訂第2版. 南江堂, 2009.

厚生省の指標「国民衛生の動向」. 財団法人 厚生統計協会

医療情報科学研究所編：公衆衛生がみえる. メディックメディア

【成績評価】三宅 100点 定期試験(100%) 小テスト 課題レポート その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	公衆衛生とは 健康と環境、疫学的方法	公衆衛生の概念を理解するとともに、健康を規定する種々の要因を解析する上で必要となる疫学について学習する。	三宅 雅史
2	健康の指標、 感染症とその予防	集団の健康水準を示す指標を理解する。感染の成立要因や伝播様式や予防対策を学習する。	〃
3	食品保健と栄養 生活環境の保全	食品衛生の制度や栄養についての正しい知識を習得する。環境と健康の関係を理解し、その対策について学習する。	〃
4	医療・介護の保障制度、 地域保健活動	医療に関わる社会保障制度について学習する。ヘルスサービスの構造について理解する。	〃
5	母子保健 学校保健	少子化社会であるわが国の母子保健や学校保健の現状を理解する。	〃
6	生活習慣病・難病対策	がん、心疾患、脳卒中、糖尿病などの生活習慣病の現状や対策を学習する。難病対策について理解する。	〃
7	健康教育とヘルス プロモーション 精神保健福祉	健康教育とヘルスプロモーションの概念や取り組み、精神保健福祉について学習する。	〃
8	産業保健 これからの公衆衛生	産業保健の概要やそれに関連する法規、労働衛生の3管理、職業病やその対策、職場におけるヘルスプロモーションを学習し、公衆衛生の今後について考える。	〃
9	感染予防策	標準予防策、実習に向けて	藤原 範子
10			〃
11	保健社会行動とは	保健社会行動についてのオリエンテーション。保健行動理論の歴史	三宅 雅史

12	行動モデル①	様々な健康課題から身近な保健行動に目を向けモデルを学習する。①KAP、ヘルスビリーフ・モデル他	三宅 雅史
13	行動モデル②	様々な健康課題から身近な保健行動に目を向けモデルを学習する。②TRA 他	〃
14	動機付け理論他	行動変容のメカニズムと行動変容ステージについて	〃
15	保健行動と社会/文化	保健行動に影響する社会とは何か(事例) 社会関係に関する理論・保健行動に影響する文化とは何か(海外の事例)	〃

【授業時間外の学習】

事前学習をして授業に参加すること。

【履修条件・注意事項】

- 1) 講義中は講義をよく聞いて理解する。指定された教科書と配付した講義プリントを持参すること。受講態度については厳しく指導する。疑問点があれば積極的に質問すること。
- 2) ディスカッションには積極的に参加すること。

專 門 基 礎 分 野

理学療法学科

作業療法学科

【科目名】解剖学 I

【教員名】守田 剛、北田 功

【教員の実務経験】 有

■無(教育実績をもつ教員(守田)と理学療法士免許及び経験を有する教員(北田)が、人体および人体を構成している細胞・組織・器官の形態・構造の基本を系統的に教授する。)

【授業方法】 ■講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科、作業療法学科・1年・前期

【必/選・単位数(時間数)】必修・3単位(90時間)

【授業概要と目的】解剖学は医学の基礎であり、人体の構造と機能を理解することなく医学を修得することは不可能である。本授業では解剖学の全体像を示し、理学療法士と作業療法士に必要な解剖学について学び、人体の各臓器や骨格、関節、神経・筋の構造や特徴についての知識を身につける。

1. 人体の筋と神経の構造について学習し、筋と神経の関連を理解する。
2. 医療を学ぶ上で、対象とする人体の構造がどのように構成されているのかを理解する。解剖学は臨床の現場において最低限の知識であり、また臨床に応用するための基礎として重要である。
3. 学生が人体の筋と神経の構造や種類、走行について知り、理解できるようになることを目的とする。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

1. 人体の各臓器の位置及びその構造と機能を説明することができる。
2. 骨格の概要および骨の基本構造と各骨の形態的特徴を説明することができる。
3. 骨の連結について基本構造と様々な結合様式を説明することができる。
4. 関節の名称、構造およびその特徴を説明することができる。
5. 神経系の構成を説明することができる。
6. 末梢神経系における神経の名称および支配する筋を正しく説明することができる。
7. 神経路の伝達について説明することができる。
8. 人体の主要な骨格筋について、その名称、構造(起始・停止、走行、神経支配、など)を知り、その作用を説明することができる。
9. 隣接筋との位置関係を説明することができる。

【教科書】野村巖編集:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版. 医学書院, 2024.

【参考書等】適宜資料配付・配信

【成績評価】 ■定期試験(60%) ※守田(40%)、北田(20%)

■小テスト(40%) ※北田の担当授業内で実施します。 課題レポート その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	解剖学総論	解剖学とは何かを説明し解剖学用語、人体の構成を概説する。	守田 剛
2	内臓学 循環器系①	内臓器官の基本構造と循環器系について概説する。	〃
3	循環器系②	動脈系、静脈系、リンパ系について概説する。	〃
4	呼吸器系	鼻、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺について概説する。	〃
5	消化器系	口腔から大腸の消化器系について概説する。	〃
6	泌尿器系 生殖器系	腎臓、尿管、膀胱、尿道について概説する。男性および女性生殖器について概説する。	〃
7	内分泌系	内分泌器官の構造と機能について概説する。	〃
8	感覚器系	外皮、味覚、平衡感覚、視覚器について概説する。	〃
9	骨学総論	骨と骨格および軟骨について説明する。	北田 功
10	脊柱、椎骨、 胸郭	脊柱と椎骨、胸郭を構成する骨について説明する。	〃
11	上肢骨	上肢帯と自由上肢を構成する骨について説明する。	〃
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	下肢骨	下肢帯と自由下肢を構成する骨について説明する。	〃
15	〃	〃	〃

16	下肢骨	肢帯と自由下肢を構成する骨について説明する。	北田 功
17	小テスト 頭蓋	頭蓋骨の連結について説明する。	〃
18	頭部、脊柱、 胸郭	脊柱と頭蓋、胸郭の連結について説明する。	〃
19	上肢帯の連結	胸骨と鎖骨、肩甲骨と鎖骨の連結について説明する。	〃
20	〃	肩・肘関節、について説明する。	〃
21	〃	腕尺関節、手関節について説明する。	〃
22	下肢帯の連結	寛骨、股関節の連結について説明する。	〃
23	〃	股関節、膝関節の連結について説明する。	〃
24	〃	膝関節、脛腓関節について説明する。	〃
25	足の連結	足関節について説明する。	〃
26	〃	足部について説明する。	〃
27	小テスト	確認テストと振り返りをする。	〃
28	骨関節まとめ	骨・関節について復習する。	〃
29	筋学総論、頭部	筋の一般的な構造と機能、頭部を概説する。	〃
30	頸部、体幹の筋	頸部、体幹の筋について説明する。	〃
31	上肢の筋	上肢帯の筋について説明する。	〃
32	〃	上腕の筋について説明する。	〃
33	〃	前腕と手の筋について説明する。	〃
34	下肢の筋	臀部、股関節について説明する。	〃
35	〃	大腿の筋について説明する。	〃
36	〃	下腿および足の筋について説明する。	〃
37	筋の支配神経	頸・胸～仙骨神経について説明する。	〃
38	神経系総論	神経系について概説し、髄膜・脳室を説明する。	守田 剛
39	脊髄・脳①	脊髄・延髄・橋について説明する。	〃
40	脳②	中脳・小脳について説明する。	〃
41	脳③	大脳・間脳について説明する。	〃
42	脊髄神経	脊髄神経の構造、種類および機能について説明する。	〃
43	脳神経	脳神経の構造、種類および機能について説明する。	〃
44	自律神経	自律神経の構造、種類および機能について説明する。	〃
45	神経路	感覚・運動の神経路について説明する。	〃

【授業時間外の学習】 事前に資料を配付・配信するため、予習をすること。また、授業後はその日に復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容を自分なりに配付資料あるいはノートにまとめておくこと。十分な理解を得るためには予習に1時間、復習に2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢（私語や受講態度）については厳しく指導する。講義では、必ず指定された教科書及びタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】 北田：毎月曜日 17時から17時30分（本館事務室前）

【科目名】解剖学Ⅱ

【教員名】藤井 奈美、松島 史弥

【教員の実務経験】有

■無(理学療法士免許及び経験を有する教員が、解剖学について国家試験を見据えた学習法にて教授する。)

【授業方法】講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・1年・後期

【必/選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】解剖学Ⅰで学んだ知識を復習し理解を深め国家試験や臨床に対応できる力をつける。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

1. 解剖学Ⅰの内容を復習し、理解を深める。
2. 身体各部位の名称や特徴を覚えることができる。
3. 問題の形式を知ることによって、正しい解答方法について理解できる。

【教科書】

野村嶺編集：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版. 医学書院, 2020.

医療情報科学研究所編集：からだが見える 人体の構造と機能 第1版. メディックメディア, 2023.

【参考書等】医療情報科学研究所編集：病気がみえる vol. 7 脳・神経 第2版. メディックメディア, 2017.

【成績評価】定期試験 小テスト(100%) 課題レポート その他

※小テストは5コマ、10コマ、15コマの計3回実施

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	骨・関節・筋系	前期に学んだ骨・関節・筋について復習を行う	藤井 奈美
2	〃	〃	〃
3	〃	〃	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	小テストと復習	〃
6	神経系	前期に学んだ神経について復習を行う	松島 史弥
7	〃	〃	〃
8	〃	〃	〃
9	〃	〃	〃
10	〃	小テストと復習	〃
11	内臓器、その他	前期に学んだ総論・内臓器・感覚器・脈管等について復習を行う	藤井 奈美
12	〃	〃	〃
13	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃
15	〃	小テストと復習	〃

【授業時間外の学習】講義前に担当教員から指定された内容を確認し予習をしておくこと。授業の復習として資料を配信するため、課題提出を行うこともある。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義及び演習に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず配付(配信)された資料およびタブレットなどを持参すること。

【オフィスアワー】毎金曜日 17時00分から17時30分(本館事務室前)

【科目名】生理学 I

【教員名】武田 英二、竹谷 豊、池住 祐哉、田村 恭佑、高田 弓

【教員の実務経験】 有

■無(医師(武田)および大学教授(竹谷)ならびに理学療法士・作業療法士免許を有する教員(池住・田村・高田)が、療法士に必要な生理学の基礎について講義を行う。)

【授業方法】 ■講義 ■演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・作業療法学科・1年・前期

【必/選・単位数(時間数)】必修・2単位(60時間)

【授業概要と目的】生体の正常な生理的機能を理解する。個々の器官や組織の働きを理解し、生体における統合された適切な生命現象が発現される仕組みについて学修する。

【到達目標】本講義では学生が生理学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も修得できることを目的とする。

【教科書】貴邑富久子, 根来英雄共著: シンプル生理学 改訂第8版. 南江堂, 2021.

【参考書等】適宜資料配付・配信

医療情報科学研究所編集: 病気がみえる vol. 7 脳・神経 第2版. メディックメディア, 2017.

【成績評価】 ■定期試験(60%) ■小テスト(20%) □課題レポート ■その他(ポスター発表 20%)

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	生理学の基礎	身体の構成成分、機能、細胞、ホメオスタシスを理解する。	武田 英二
2	血液の生理①	血液の機能、組成、血漿、細胞成分を理解する。	〃
3	血液の生理②	血液の止血機構、生体防御機構、臓器機能の連携機能を理解する。	〃
4	血液の生理③	血液の機能、血液の組成、免疫機能について理解する。	〃
5	循環の生理①	心臓のポンプ機能、心電図を理解する。	〃
6	循環の生理②	心機能の調節、血管系とリンパ系を理解する。	〃
7	循環の生理③	循環の調節(血圧、神経性調節、体液性調節)を理解する。	〃
8	循環の生理④	脳、肝、肺、皮膚、筋肉等の局所循環を理解する。	〃
9	循環器の生理①	心筋の基本的構造と性質について教授する。	池住 祐哉
10	循環器の生理②	大循環と小循環、刺激伝導系、スターリングの法則について教授する。	〃
11	循環器の生理③	心電図の基本(心拍数の数え方～頻脈・徐脈)について教授する。	〃
12	循環器の生理④	異常心電図の見方について教授する。	〃
13	栄養と代謝①	生体に必要な栄養素と体内での代謝の基本を理解する。	竹谷 豊
14	栄養と代謝②	代謝の調節機構、エネルギー代謝の評価法とその意味を理解する。	〃
15	栄養と代謝③	生体での栄養と作用について理解する。	武田 英二
16	消化と吸収①	消化器官の構造と機能を理解する。	竹谷 豊
17	消化と吸収②	三大栄養素の消化・吸収の仕組みを理解する。	〃
18	消化と吸収③	消化・吸収における肝臓の役割を理解する。	〃

19	消化①	外分泌① 消化と吸収(胃～小腸)を理解する。	武田 英二
20	消化②	外分泌② 消化と吸収(大腸～肛門)を理解する。	〃
21	呼吸の生理①	呼吸機能、換気、ガス交換、ガス分圧を理解する。	〃
22	呼吸の生理②	酸素の運搬、二酸化炭素の運搬、呼吸の調節を理解する。	〃
23	呼吸の生理③	肺換気量の調節、呼吸の異常、人工呼吸を理解する。	〃
24	まとめ①	生理学のまとめ①	〃
25	まとめ②	生理学のまとめ②	〃
26	演習①	スパイログラム(一秒率・一秒量)・心電図を演習する。	池住・田村・高田
27	演習②	運動後の血圧・脈拍・呼吸動態について演習を通して理解する。	〃
28	演習③	ポスター作成	池住・高田
29	演習④	ポスター発表①	〃
30	演習⑤	ポスター発表②	〃

【授業時間外の学習】 講義で習った専門用語や内容を確認し、ノートにまとめる。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 講義には教科書、ノート、タブレットを持参する。まじめに受講し、質問などにより講義内容の理解に努める。

【オフィスアワー】

武 田：火曜・水曜・木曜日 16時30分から18時(校長室)

池 住：毎水曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

田 村：毎金曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

高 田：毎水曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

【科目名】生理学Ⅱ

【教員名】武田 英二、竹谷 豊、池住 祐哉、田村 恭佑、高田 弓

【教員の実務経験】有

■無(医師(武田)および大学教授(竹谷)ならびに理学療法士・作業療法士免許を有する教員(池住・田村・高田)が、療法士に必要な生理学の基礎について講義を行う。)

【授業方法】講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科、作業療法学科・1年・後期

【必/選・単位数(時間数)】必修・2単位(60時間)

【授業概要と目的】生体の正常な生理的機能を理解する。個々の器官や組織の働きを理解し、生体に統合された適切な生命現象が発現される仕組みについて学修する。

【到達目標】本講義では学生が生理学の基礎的な考え方や応用力を学び、さらに最新の知識も修得できることを目的とする。

【教科書】

貴邑富久子, 根来英雄共著: シンプル生理学 改訂第8版. 南江堂, 2021.

医療情報科学研究所編集: 病気がみえる vol. 7 脳・神経 第2版. メディックメディア, 2017.

【参考書等】適宜資料配付・配信

【成績評価】定期試験(60%) 小テスト(20%) 課題レポート その他(ポスター発表 20%)

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	内分泌機能①	ホルモンの性質・分泌調節・作用機序を理解する。	竹谷 豊
2	内分泌機能②	視床下部・下垂体・副腎皮質ホルモンを理解する。	〃
3	内分泌機能③	甲状腺ホルモン・骨代謝のホルモン調節を理解する。	〃
4	内分泌機能④	副腎髄質ホルモン、膵臓ホルモンを理解する。	〃
5	尿生成と排泄①	腎臓の構造と機能を理解する。	〃
6	尿生成と排泄②	尿の生成と排尿の調節を理解する。	〃
7	体液と調節①	体液組成と水・電解質、酸塩基調節を理解する。	〃
8	内分泌①	下垂体～甲状腺ホルモンについて理解する。	武田 英二
9	内分泌②	上皮小体～生殖ホルモン、その他について理解する。	〃
10	神経の基本的機能①	神経細胞、静止膜電位、活動電位を理解する。	〃
11	神経の基本的機能②	興奮の電動、興奮の伝達、シナプスを理解する。	〃
12	神経①	神経細胞の形態、静止膜電位について教授する。	池住 祐哉
13	神経②	活動電位、興奮の伝導について教授する。	〃
14	筋肉の基本的機能①	骨格筋の構造、筋収縮のしくみを理解する。	武田 英二
15	筋肉の基本的機能②	筋肉の長さや張力を関係、筋収縮のエネルギーを理解する。	〃
16	神経系の機能①	中枢神経と末梢神経を理解する。	〃
17	神経系の機能②	自律神経系を理解する。	〃

18	神経系の機能③	体性神経系(脊髄、脳幹、小脳)と運動機能を理解する。	武田 英二
19	神経系の機能④	体性神経系(大脳基底核、新皮質運動野)と運動機能を理解する。	〃
20	神経系の機能⑤	大脳皮質の構造、活動レベル、睡眠を理解する。	〃
21	神経系の機能⑥	新皮質の構造、統合機能、辺縁系と視床下部の機能を理解する。	〃
22	感覚の生理①	視覚を理解する。	〃
23	感覚の生理②	聴覚、平衡感覚を理解する。	〃
24	感覚の生理③	嗅覚と味覚を理解する。	〃
25	感覚の生理④	体性感覚と内臓感覚を理解する。	〃
26	演習①	視野検査、瞳孔反射について演習を通して理解する。	池住・田村・高田
27	演習②	静的触覚・二点識別覚検査を演習し理解する。	〃
28	演習③	ポスター作成	池住・田村
29	演習④	ポスター発表①	〃
30	演習⑤	ポスター発表②	〃

【授業時間外の学習】 講義で習った専門用語や内容を確認し、ノートにまとめる。予習及び復習には各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 講義には教科書、ノート、タブレットを持参する。まじめに受講し、質問などにより講義内容の理解に努める。

【オフィスアワー】

武 田：火曜・水曜・木曜日 16時30分から18時(校長室)

池 住：毎水曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

田 村：毎金曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

高 田：毎金曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

【科目名】運動学 I

【教員名】森下 照大、松浦 康、奥野 剛史

【教員の実務経験】 有

■無(理学療法士免許及び経験を有する教員(森下・松浦)と作業療法士免許及び経験を有する教員(奥野)が、骨・関節の構造と機能や神経系の働きに関する講義を行う。)

【授業方法】 ■講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科、作業療法学科・1年・後期

【必/選・単位数(時間数)】必修・2単位(60時間)

【授業概要と目的】人間の運動は主として筋肉の収縮を原動力として骨格に伝達されている。この授業では、人体の解剖と生理に関する基礎知識を習得する。また、骨・関節の構造と機能や神経系の働きについて学び、理学療法・作業療法に応用できるように理解を深める。

【到達目標】学生は解剖と生理に関する基礎知識を基に、骨・関節の構造と機能を理学療法・作業療法に臨床応用ができる。

【教科書】中村隆一ほか著：基礎運動学 第7版. 医歯薬出版, 2025.

【参考書等】資料配付

【成績評価】 ■定期試験(100%) 小テスト 課題レポート その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	運動学概論	運動学の歴史, 概要を理解する。	森下 照大
2	身体運動と力学	基礎的な身体運動と力学を理解する。	〃
3	運動学的分析	運動学的分析・解析の手法を理解する。	〃
4	運動の法則	運動の法則について理解する。	〃
5	てこの原理	てこの原理と身体応用を理解する。	〃
6	組織と各器官	身体組織について理解する。	〃
7	運動器の構造と機能	運動器の構造と機能を理解する。	〃
8	運動器について	運動器の構造と機能の理解	松浦 康
9	頸部について	頸部の運動学的特徴の理解	〃
10	体幹について	体幹の運動学的特徴の理解	〃
11	股関節の運動	股関節の運動学的特徴の理解	〃
12	膝関節の運動①	膝関節の運動学的特徴の理解 I	〃
13	膝関節の運動②	膝関節の運動学的特徴の理解 II	〃
14	足関節の運動①	足関節の運動学的特徴の理解	〃
15	足関節の運動②	足部の運動学的特徴の理解	〃
16	肩甲骨の運動	肩甲骨の運動について教授する。	奥野 剛史
17	肩の運動①	肩甲上腕関節の運動について教授する。	〃
18	肩の運動②	肩鎖・胸鎖・肩甲胸郭の運動について教授する。	〃

19	肘の運動	肘と前腕の運動について教授する。	奥野 剛史
20	手関節の運動	近位・遠位手関節の運動について教授する。	〃
21	手指の運動	母指と他指との協調運動について教授する。	〃
22	上肢帯の運動	上肢帯としての連動について教授する。	〃
23	神経系の基礎	中枢および末梢神経系の基礎について教授する。	〃
24	運動の中枢神経機構①	反射と運動の関係について教授する。	〃
25	運動の中枢神経機構②	姿勢反射と立ち直りについて教授する。	〃
26	運動の中枢神経機構③	随意運動の制御システムの基礎について教授する。	〃
27	感覚器の構造と機能	感覚器と運動の関係について教授する。	〃
28	運動学習①	運動学習の基礎について教授する。	〃
29	運動学習②	運動学習の応用について教授する。	〃
30	運動学習③	運動学習の応用と臨床での実際について教授する。	〃

【授業時間外の学習】 その日のうちに復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容を自分なりにノートにまとめておくこと。十分な理解を得るためには予習及び復習には、各2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢（私語や受講態度）については厳しく指導する。講義には必ず指定された教科書及びタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】

森下：毎月曜日 17時から 17時30分(本館事務室前)

奥野：毎月曜日 17時から 17時30分(本館事務室前)

松浦：毎月曜日 17時から 17時30分(本館事務室前)

【科目名】人間発達学

【教員名】北田 功

【教員の実務経験】有

無(理学療法士免許及び経験を有する教員が、必要な医療的内容に関する講義を行う。)

【授業方法】講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・1年・後期

【必/選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】人間発達学では、人の心身を胎児期から老年期まで概観し、成長とは単に大きくなることではなく形態や機能において変化し続ける過程であることを概論する。

生涯発達を理解するとともに理学療法において人間発達の意義を学ぶとともに、姿勢・運動発達を中心とし、人間発達について探求する。授業に必要な資料は、その都度配付する。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

1. 生後12ヵ月までの各時期における発達の要点を理解できる。
2. 発達課題を運動機能の視点から理解できる。
3. デンバー式発達判定法の項目で粗大運動の月齢を説明できる。
4. 上肢機能の発達について説明できる。

【教科書】なし

【参考書等】

大城昌平編集：リハビリテーションのための人間発達学 第2版. メディカルプレス, 2014.

大城昌平, 儀間裕貴編集：子どもの感覚運動機能の発達と支援. メジカルビュー社, 2018.

岩崎清隆編：標準理学療法学・作業療法学 人間発達学 第2版. 医学書院, 2017.

上杉雅之：イラストでわかる人間発達学. 医歯薬出版株式会社, 2015.

藪中良彦, 木元稔, 坂本仁：Crosslink 理学療法テキスト小児理学療法学. メジカルビュー社, 2020.

浅野大喜：Crosslink basic リハビリテーションテキスト人間発達学. メジカルビュー社, 2021.

【成績評価】定期試験(100%) 小テスト 課題レポート その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	イントロダクション、総論	人間発達学について学ぶ。発達を知る。	北田 功
2	発達の見方と発達検査の進め方	発達をどのように診るか理解する。	〃
3	身体の運動機能と構造の発達と障害	運動器を主に量的発達を理解する。	〃
4	発達における脳について	脳の発達を理解し、原始反射について理解する。	〃
5	正常発達・総論	姿勢反射・反応について理解する	〃
6	正常発達粗大運動①	正常発達の各時期を理解する。	〃
7	正常発達粗大運動②	正常発達の各時期を理解する。	〃
8	正常発達粗大運動③	改訂日本版デンバー式発達スクリーニング検査、デンバー発達判定法(DENVER II)について理解する。	〃
9	正常発達	姿勢反射・反応と粗大運動発達との関係性を理解する。	〃
10	社会性の発達	小児の社会性の発達を理解する。	〃
11	情動・愛着の発達	小児の情動・愛着の発達を理解する。	〃
14	正常発達と運動療法①	発達の過程を理学療法にどのように応用できるか学ぶ(実技)	〃
15	正常発達と運動療法②	発達の過程を理学療法にどのように応用できるか学ぶ(実技)・まとめ	〃

【授業時間外の学習】事前に資料を配付・配信することがあるため、資料に目を通しておくこと。授業後はその日に復習を行い、講義で出てきた医療専門用語を確認するとともに内容について自分なりに配付資料あるいはノートに整理しておくこと。十分な理解を得るためには復習に1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義では、必ずタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】毎木曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

【科目名】病理学

【教員名】川浦 昭彦

【教員の実務経験】 有(実務経験のある医師が病理学に必要な医療的内容に関する講義を行う。) 無

【授業方法】 講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科、作業療法学科・1年・後期

【必/選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】医療を学ぶ学生にとって、病理学は基礎医学の総まとめであり臨床医学に入門するために必要な学問である。学生がこれまで学習した内容を総括して、病気の原因、発生の仕組み、経過、病気が迎える最終的な結末(転帰)といった病気の本態に関する基礎を理解できるようになる事を目的とする。

【到達目標】本講義では学生が病理学的な考え方を身につけ、臨床医学を十分に理解できることを到達目標とする。

【教科書】渡辺照男, 浅田祐士郎編集: カラーで学べる病理学 第6版. ヌーヴェルヒロカワ, 2025.

【参考書等】なし

【成績評価】 定期試験(100%) 小テスト 課題レポート その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	病理学の領域・細胞組織の障害	細胞の微細構造と機能、組織、細胞障害など	川浦 昭彦
2	再生と修復・循環障害	再生、化生、幹細胞、再生医療、充血・うっ血など	〃
3	循環障害(1)	房側循環など	〃
4	循環障害(2)	血液凝固と血栓、塞栓症、虚血と梗塞、浮腫、ショックなど	〃
5	循環障害(3)	高血圧など	〃
6	炎症	炎症とは、炎症の基本病変、急性炎症のメカニズム、急性炎症の種類など	〃
7	免疫とアレルギー(1)	生体における免疫系の役割、免疫系の仕組みと働きなど	〃
8	免疫とアレルギー(2)	アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症、移植免疫など	〃
9	感染症	感染症とは、人体における微生物の分布、病原微生物の種類とその特徴など	〃
10	代謝異常	脂質代謝異常、糖質代謝異常、タンパク質代謝異常など	〃
11	生命の危機、腫瘍(1)	日本人の死因、生命の危機をもたらす損傷など/腫瘍の分類と命名	〃
12	腫瘍(2)	腫瘍の形態、腫瘍の発生と発育	〃
13	腫瘍(3)	悪性腫瘍の進展と転移、腫瘍と宿主の関係	〃
14	腫瘍(4)	腫瘍の診断と治療、腫瘍の疫学	〃
15	先天異常	先天異常の原因・要因、主な先天異常、子宮内発育不全、先天異常治療の可能性	〃

【授業時間外の学習】その日のうちに、復習をおこない、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容を自分なりにノートにまとめておくこと。十分な理解を得るために、予習及び復習には、各2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず指定された教科書及びタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。理由のない遅刻や欠席は認めない。

【オフィスアワー】火～金曜日 16時30分から17時30分(本館事務室前)

【科目名】リハビリテーション工学

【教員名】池住 祐哉、藤井 奈美

【教員の実務経験】 有

無(理学療法士免許及び経験を有する教員が、臨床現場において実践的に役に立つ授業を実施する。)

【授業方法】 講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・1年・前期

【必/選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】住環境設定の基礎となる介護保険制度と、住環境設備について学ぶ。(福祉住環境コーディネーター2級資格取得を目指す内容を含む)

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

1. 介護保険制度の概要と福祉住環境コーディネーターの意義を学ぶ。
2. 福祉環境と整備の進め方を学ぶ。
3. 福祉住環境整備の基本的技術を学ぶ。

【教科書】東京商工会議所編：福祉住環境コーディネーター検定試験 2級 公式テキスト改訂7版.

【参考書等】なし(必要であれば資料配付)

【成績評価】 定期試験(100%) 小テスト 課題レポート その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1		高齢者や障害者社会状況と住環境 住環境整備の重要性・必要性	藤井 奈美
2	高齢者や障害者 社会状況と住環 境コーディネ ーターの意義	介護保険制度の概要	〃
3		〃	〃
4		高齢者の居住の安定確保のための施策	〃
5		〃	〃
6	【第3章】 相談援助の考 え方と福祉住環 境整備の進め方	介護保険制度とケアマネジメント	〃
7		相談援助の進め方	〃
8		福祉住環境整備関連職への理解と連携	〃
9		福祉住環境整備の進め方	〃
10	【第4章】 福祉住環境の基 本技術及び実践 に伴う知識	福祉住環境整備の共通基本技術	池住 祐哉
11		〃	〃
12		生活行為別福祉住環境整備の手法	〃
13		〃	〃
14		福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識	〃
15		〃	〃

【授業時間外の学習】授業の振り返りに関しては授業後に30分程度の復習を要する。また、演習に際しては、授業外での制作の時間を要する場合もある。

【履修条件・注意事項】講義では、必ず配付されたタブレットを持参すること。授業内で家庭にあるものを利用して制作を行うことがある。必要な物品は随時指示を行う。

【オフィスアワー】毎水曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

【科目名】 老年医学

【教員名】 川浦 昭彦、松島 史弥

【教員の実務経験】 ■有(実務経験のある医師(川浦)ならびに理学療法士の資格を有する教員(松島)が、理学療法士・作業療法士に必要となる老年医学の基礎について教授する。)

□無

【授業方法】 ■講義 □演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】 理学療法学科、作業療法学科・1年・後期

【必/選・単位数(時間数)】 必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】 世界1位の長寿国日本では、老人の人口における割合は高く、その有病率も高い。よってPT、OTとして働く場合にも高齢者を治療することが多くなる。学生が高齢者に多い病気と病態を知り、理解できるようになることを目的とする。

【到達目標】 学生が高齢者特有の生理や病気の特徴を把握できることを到達目標とする。

【教科書】 大内尉義編集：標準理学療法学・作業療法学 老年学 第6版. 医学書院, 2025.

【参考書等】 なし

【成績評価】 ■定期試験(100%) □小テスト □課題レポート □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	老化と老年病の考え方	老化とは、老化による生理機能の低下と疾患、高齢者の定義と分類	川浦 昭彦
2	加齢に伴う変化(生理)	高齢者の生理機能の特徴、感覚機能の加齢変化	〃
3	加齢に伴う変化(運動)/高齢者の薬物療法の考え方	高齢者の運動機能の加齢変化など/留意すべき点など	〃
4	高齢者に多い老年症候群(1-11)	老年症候群の概念、代表的な老年症候群	〃
5	高齢者に多い老年症候群(12-25)	代表的な老年症候群	〃
6	加齢に伴う変化(精神心理面)/性差医療からのアプローチ	老化による認知機能の変化など/性差医療とは、女性からみた性差医療など	〃
7	高齢者の定義および人口動態	高齢者の定義と世界と日本における人口動態	〃
8	高齢者との接し方	高齢者との接し方の心得、医療従事者の心得など	〃
9	高齢者の機能評価	高齢者のQOL改善のためになど	〃
10	高齢者の栄養状態の評価と対策	栄養障害、低栄養の現状、栄養管理のプロセスなど	〃
11	高齢者の臨床検査値の評価	臨床検査とは、検査基準値の設定方法と問題点など	〃
12	高齢者に特徴的な症候と疾患	老年症候群を除く疾患(循環器疾患、呼吸器疾患など)	〃
13	老年学からのアプローチ	老年学とサクセスフルエイジングの理念など	松島 史弥
14	社会学・経済学からみた高齢社会/高齢者の医療、介護、福祉、保健	高齢社会の問題、生産人口のみかたなど/医療など介護と福祉、介護保険制度、障害者総合支援法など	〃
15	高齢者の退院支援、在宅医療	退院支援の必要性和実際、介護保険制度の活用など	〃

【授業時間外の学習】 その日のうちに、復習をおこない、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容を自分なりにノートにまとめておくこと。十分な理解を得るために、予習及び復習には、各2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず指定された教科書及びタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。理由のない遅刻や欠席は認めない。

【オフィスアワー】 火～金曜日 16時30分から17時30分(本館事務室前)

【科目名】臨床心理学

【教員名】田村 隆宏

【教員の実務経験】有

無(教育実績をもつ教員がその経験を生かし、臨床現場において実践的に役に立つ授業を実施する。)

【授業方法】講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科、作業療法学科・1年・後期

【必/選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】初回からの3回は臨床心理学に繋がる一般心理学領域の「人格・適応」分野から特に「性格」に焦点を当て、性格の構造、性格検査、性格の発達に関する内容を中心とする。4回目以降は、理学療法士・作業療法士に求められる心理的理解の基礎として、臨床心理学の主要な領域を概観する。心身相関や対人関係への理解を深め、リハビリテーション場面における適切な関わりの基盤を形成することを目的とする。

【到達目標】

1. 臨床心理学の主要な領域と基本的な考え方を説明できる。
2. 心理的側面が医療・リハビリテーションに及ぼす影響を理解する。
3. リハビリテーション場面における心理的課題を理解し、適切な関わりを考えることができる。

【教科書】町沢静夫編：標準理学療法学・作業療法学 臨床心理学. 医学書院, 2001.

【参考書等】下山晴彦編：よくわかる臨床心理学. ミネルヴァ書房, 2000.

【成績評価】定期試験(100%) 小テスト 課題レポート その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	性格の構造と理論 (一般心理学領域)	性格の構造、類型論と特性論	田村 隆宏
2	性格検査 (一般心理学領域)	質問紙法、投影法、作業検査法、性格検査実習	〃
3	性格の発達 (一般心理学領域)	遺伝と環境、養育環境の影響	〃
4	第1章、第2章	臨床心理学概論、神経症とDSMの診断体系	〃
5	第3章	不安障害	〃
6	第4章、第5章	身体表現性障害、解離性障害	〃
7	第6章、第7章	適応障害、パーソナリティ障害	〃
8	第8章、第9章	摂食障害、統合失調症	〃
9	第10章、第11章	依存症、気分障害	〃
10	第12、13、14章	てんかん、睡眠障害、性障害	〃
11	第15章	子どもの精神障害とその周辺	〃
12	第16章、第17章	老化とその障害、リラクゼーション法	〃
13	第18章	精神療法	〃
14	第19章、第20章	力動精神療法、認知行動療法	〃
15	第21章、第22章	薬物療法	〃

【授業時間外の学習】授業時間外には、教科書の該当箇所を精読し、授業内容の理解を深めること。あわせて、医療・リハビリテーション場面を想定しながら、心理的視点の活用について整理すること。予習、復習に各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】出席時間数を満たしていない者には単位を認定しない。

【科目名】リハビリテーション医学

【教員名】熊谷 正憲、藤井 奈美、奥野 剛史

【教員の実務経験】有

■無(教育実績のある教員(熊谷)ならびに作業療法士・理学療法士免許及び経験を有する教員(奥野・藤井)が、リハビリテーション医学の基礎について教授する。)

【授業方法】講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科、作業療法学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】医学・医療、そしてリハビリ医学・医療は健康の予防・回復・維持増進のために大きい実績を上げ、強い信頼を得ています。他方で常に問題・課題は存在していますし、知識・技術の目覚ましい発展で新たな問題・課題も生じてきています。

この講義ではそれらの問題・課題を取り上げ、それを乗り越え解決していく方向性について検討します。医療は何よりも生命そのものに関わり、そして生活のあり方(QOL)の維持・向上を目指します。

医療に従事する人は、知らなかったとか、分かっていたけどできなかったでは許されません。他方、成果を上げると、患者さんに喜ばれ感謝されます。理学療法にしても作業療法にしても、医療は厳しい側面を有しつつも、実にやりがいのある仕事です。

この講義では、テーマごとに生命倫理、特に医療倫理に関わる事例・課題を取り上げ、それらの検討を通して、医学的基礎知識を学び、それらの諸課題の克服を目指して深く考え、医療をよりよく実践できる姿勢・態度が築けるようにします。それによってリハビリ担当の専門家として生きていく心構えができるようにします。

そのために皆さんは、事前に配布する資料を読み、質問等を予め考えておけば、授業はあっというまに、充実したものになっていきます。

【到達目標】

1. 学生の皆さんは、医療・医学には全体として、そして領域ごとに様々な問題・課題があることを認識する。それを主として社会的・倫理的問題に絞り、それらを克服するために必要とされることを学ぶ。
2. 「初めに患者ありき」という医学・医療の原点をしっかり抑えて、医学・医療の基礎的知識や情報を学び、医学・医療に欠かせない「法」、「倫理」そして「人間性」の各視点から医学・医療のあり方について認識と自覚を深める。
3. 皆さんがこれから学んでいく専門の知識・技術を将来の医療の現場でよりよく発揮し、患者さんに感謝され喜んでもらうために欠かせない法や倫理を尊重し守る姿勢や態度、そして何よりも人間性を鍛錬して、リハビリの専門家として生きていくという自覚と覚悟が身につく。

【教科書】使用しない。予め講義録を配付する。

【参考書等】

上田敏著：リハビリテーション (ブルーバックス)。講談社、1996～2018。

長谷川幹著：リハビリ 生きる力を引き出す。岩波新書、2019。

赤林朗[ほか]編：入門・医療倫理 I (改訂版) II III。勁草書房、2007～2017。

木村敏著：あいだ。ちくま学芸文庫、2005(1988)。

津田敏秀著：医学的根拠とは何か。岩波書店、2013。

梶田昭著：医学の歴史。講談社学術文庫、2003。

B. 叻、北野・中澤訳：医療の倫理ジレンマ解決への手引き。西村書店、2003。

手嶋豊：医事法入門。有斐閣、2005。

加藤尚武、加茂直樹編著：生命倫理学を学ぶ人のために。世界思想社、1998。

矢崎義雄編：医の将来。岩波新書、2011。

【成績評価】熊谷 定期試験(80%) 小テスト(20%) 課題レポート 出席状況(参考)
奥野・藤井 定期試験(100%) 小テスト 課題レポート その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	リハビリ医学・医療に不可欠な医療倫理	事例の検討を通して、「本当の意味の人間回復」をめざすリハビリ医療には知識・技術だけでなく、法的・倫理的見識、そしてよりよい人間性の修得が不可欠であることを学ぶ。	熊谷 正憲
2	インフォームド・コンセント	患者との信頼関係構築に際して、情報提供のあり方と患者の意向・気持ちの聴取のあり方について学ぶ。	〃
3	脳死と臓器移植	定着しつつある脳死判定と臓器移植の現状と課題を認識し、この面から医療の在り方を考える。	〃

4	遺伝子検査、遺伝子治療	遺伝子検査・治療の現状とあるべき姿について認識を深め、理学療法・作業療法にも関わってくる再生医療についてその課題などを理解し、将来に備える。	熊谷 正憲
5	生殖補助医療	少子化の中での生殖補助医療の現状と課題を認識し、若い人に特に影響の深いこの医療のあるべき姿を考える。	〃
6	高齢者医療	増加顕著な高齢者の生き方と医療のあり方について考え、理学・作業の療法に関りの極めて深い高齢者がよりよく生きるには医療はどうあるべきか検討する。	〃
7	安楽死・尊厳死・平穏死	人間に不可避の死に対して医療はどう関わるか？安楽死問題を中心に検討し、自分自身の死生観を豊かにして、医療者として死に向かい合うことの意義を理解し、実践に備える態度を築く。	〃
8	医療倫理と環境倫理	よい環境なくしては健康は増進できないことを十分理解し、医療倫理が環境倫理と密接な関係にあることを踏まえて、法・倫理・人間性の重要性を重ねて確認し、医療人になった時の心構えの確立を目指す覚悟ができる。	〃
9	専門職の法・倫理・人間性	専門職セラピスト(理学療法士・作業療法士)としてなぜ法や倫理を修得し、人間性を鍛えなければならないかを、これまでの授業を踏まえつつ確認し、専門職として生きる基本的態度・心構えができていくかどうかをふり返り、今後の学びの出発点とすることができる。	〃
10	運動器疾患のリハビリテーション	運動器疾患のリハビリテーションの対象となる疾患の概要を知り、運動器疾患に関わる専門職およびその役割について理解する。	藤井 奈美
11	循環器疾患のリハビリテーション	循環器疾患のリハビリテーションの対象となる疾患の概要を知り、循環器疾患に関わる専門職およびその役割について理解する。	〃
12	呼吸器疾患のリハビリテーション	呼吸器疾患のリハビリテーションの対象となる疾患の概要を知り、呼吸器疾患に関わる専門職およびその役割について理解する。	〃
13	脳血管疾患のリハビリテーション	脳血管疾患のリハビリテーションの対象となる疾患の概要を知り、脳血管疾患に関わる専門職およびその役割について理解する。	奥野 剛史
14	神経筋疾患のリハビリテーション	神経筋疾患のリハビリテーションの対象となる疾患の概要を知り、神経筋疾患に関わる専門職およびその役割について理解する。	〃
15	精神疾患のリハビリテーション	精神疾患のリハビリテーションの対象となる疾患の概要を知り、精神疾患に関わる専門職およびその役割について理解する。	〃

【授業時間外の学習】資料・講義録に目を通しておく、小テストにそなえることができる。また関連事項を調べる、「レポート」課題に答える準備となる。予習及び復習に各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義録を事前に読んでおくこと、口頭・及び文書(小テストを含む)で積極的に質問や「意見」を述べた学生に一定の評価を与える。

【オフィスアワー】

藤井：毎月曜日 17時から 17時30分(本館事務室前)

奥野：毎月曜日 17時から 17時30分(本館事務室前)

【科目名】リハビリテーション概論

【教員名】森下 照大

【教員の実務経験】 有

■無(理学療法士免許及び経験を有する教員が、理学療法士および作業療法士に必要なリハビリテーションの基本的な考え方について講義を行う。)

【授業方法】 ■講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科、作業療法学科・1年・前期

【必/選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】理学療法士および作業療法士に必要なリハビリテーションの基本的な考え方を理解する。また、リハビリテーションに関わる職種を知り各職種の役割やチームでの連携について理解する。さらに、理学療法士および作業療法士に必要なリハビリテーションおよび各疾患での考え方について理解する。また、リハビリテーション医療で理学療法士および作業療法士に必要な知識や技術について理解する。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

1. 理学療法士および作業療法士に必要なリハビリテーションの基本的な考え方を説明できる。
2. リハビリテーションに関わる職種とその役割について説明できる。
3. 理学療法士および作業療法士に必要なリハビリテーションおよび各疾患での考え方を説明できる。
4. リハビリテーション医療で理学療法士および作業療法士に必要な知識や技術について説明できる。

【教科書】なし 適宜資料配付

【参考書等】中村隆一編：入門リハビリテーション概論 第7版. 医歯薬出版, 2009.

【成績評価】 ■定期試験(80%) 小テスト ■課題レポート(20%) その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	リハビリテーションの基礎	リハビリテーションの基本的考え方について理解する(定義・領域・変遷)	森下 照大
2	〃	リハビリテーションに関わる職種を知り、各職種の役割およびチームでの連携について理解する	〃
3	〃	リハビリテーション医療の主な障がいの分類および各疾患について理解する	〃
4	〃	リハビリテーション医療が提供される流れについて理解する	〃
5	〃	リハビリテーション医療での理学療法士・作業療法士の役割について理解する	〃
6	障がいの理解	障がいのある方の心身について理解を深め、その受容過程について学ぶ	〃
7	〃	障がいの捉え方について理解する I C I D Hについて	〃
8	〃	障がいの捉え方について理解する I C Fについて	〃
9	リハビリテーション医療	身体障がいのリハビリテーションに必要な知識や技術について理解する ①	〃
10	〃	身体障がいのリハビリテーションに必要な知識や技術について理解する ②	〃
11	〃	身体障がいのリハビリテーションに必要な知識や技術について理解する ③	〃
12	〃	身体障がいのリハビリテーションに必要な知識や技術について理解する ④	〃
13	〃	精神障がいのリハビリテーションに必要な知識や技術について理解する	〃
14	自立支援	自立支援に関するリハビリテーションについて理解する	〃
15	就労支援	就労支援に関するリハビリテーションについて理解する	〃

【授業時間外の学習】その日のうちに復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容をノートにまとめておくこと。十分な理解を得るためには予習復習に、2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず配付資料およびタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問すること。

【オフィスアワー】水曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

【科目名】地域保健医療福祉論

【教員名】池村 健、来田 晃幸、松村 幸治、池住 祐哉

【教員の実務経験】 有

■無(臨床の理学療法士(池村・来田)、作業療法士(松村)ならびに理学療法士として実務経験のある教員(藤井)が地域医療と福祉の基礎について講義を行う。)

【授業方法】 講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科、作業療法学科・1年・後期

【必/選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】理学療法士・作業療法士および看護師が、地域の医療・保険・福祉の中で、どのような役割を担っているかについて理解を深める。また、国際的な医療・保健・福祉・リハビリテーションのトピックスなどについて教授し、見聞を広める。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

1. 地域で展開されるリハビリテーションの流れが理解できる。
2. 地域リハビリテーションでの、理学療法士・作業療法士等の専門職の役割を理解できる。
3. 地域の医療・保健・福祉での、関連職種との連携について理解できる。
4. 国際的な医療・保健・福祉とリハビリテーションについて理解できる。

【教科書】資料配付

【参考書等】なし

【成績評価】 定期試験 小テスト ■課題レポート(100%) その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	地域での作業療法士の役割	地域リハビリテーションの流れについて学ぶ。	松村 幸治
2			〃
3		地域医療・保健・福祉の中での、作業療法士の役割および関連職種との連携について学ぶ。	〃
4			〃
5		これからの地域医療・保健・福祉の中で、求められる作業療法士について学ぶ。	〃
6	地域での理学療法士の役割	県内地域の医療・保健・福祉の中での、理学療法士の役割および関連職種との連携について学ぶ。	池村 健
7			〃
8		県内外地域の医療・保健・福祉の中での、理学療法士の役割について学ぶ。	〃
9		これからの地域医療・保健・福祉の中で、求められる理学療法士について学ぶ。	〃
10	地域での看護師の役割	地域の医療・保健・福祉の中での、看護師の役割について学ぶ。	池住 祐哉
11		地域の医療・保健・福祉の中で、看護師と理学療法士・作業療法士の連携について学ぶ。	〃
12	国外での理学療法士の活躍	JICA の活動と世界の理学療法士の動向	来田 晃幸
13			〃
14			〃
15			〃

【授業時間外の学習】毎週講義前に復習を行う。予習及び復習に各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】疑問があれば積極的に質問する。

【科目名】 社会保障経済学

【教員名】 白山 靖彦

【教員の実務経験】 有

無(三重県福祉行政に従事した経験を持つ教員がその経験を活かし、社会保障経済について講義や演習を行う。)

【授業方法】 講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】 理学療法学科、作業療法学科・1年・後期

【必/選・単位数(時間数)】 必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】 わが国の社会保障制度を理解し、経済との関連を学ぶ。

【到達目標】 社会保障制度の全体の仕組みと経済との関連、および5つの公的社会保険制度を理解する。

【教科書】 なし

【参考書等】 なし

【成績評価】 定期試験(70%) 小テスト(30%) 課題レポート その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	社会保障とは	社会保障の定義と経済との関係を理解する	白山 靖彦
2	医療保険①	医療保険の制度と種類を理解する	〃
3	医療保険②	療養費などについて理解する	〃
4	医療保険③	後期高齢者医療について理解する	〃
5	年金①	年金制度の仕組みについて理解する	〃
6	年金②	国民基礎年金について理解する	〃
7	年金③	国民厚生年金について理解する	〃
8	高齢者福祉	認知症関連法制度について理解する	〃
9	障害福祉①	障害者総合支援法について理解する	〃
10	障害福祉②	障害福祉サービスについて理解する	〃
11	介護保険①	介護保険制度の仕組みについて理解する	〃
12	介護保険②	保険者と被保険者との関係について理解する	〃
13	介護保険③	介護保険サービスの種類について理解する	〃
14	雇用保険	雇用保険制度の仕組みについて理解する	〃
15	労災保険	労災保険制度の仕組みについて理解する	〃

【授業時間外の学習】 その日のうちに復習を行い、講義で指摘された専門用語や配付された資料を確認するとともに、その内容を自分なりに自己学習ノートにまとめておくこと。十分な理解を得るためには予習及び復習には、各2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。

專 門 分 野

理学療法学科

【科目名】理学療法概論

【教員名】森下 照大

【教員の実務経験】■有(理学療法士として実務経験のある教員が、理学療法の基本的な考え方について講義を行う。)

□無

【授業方法】■講義 □演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・1年・前期

【必/選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】理学療法概論は理学療法の業務を理解する上で入門となるものである。医療・福祉における理学療法の位置づけ、対象、業務内容を学び、さらに実際の業務に直結する管理・運営について学ぶ。

【到達目標】学生は理学療法士について理解を深め、理学療法士としての資質を養い、理学療法士の業務について説明できる。

【教科書】庄本康治編集：PT・OT ビジュアルテキスト 理学療法概論 第2版. 羊土社, 2024.

【参考書等】なし

【成績評価】■定期試験(80%) □小テスト ■課題レポート(20%) □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	理学療法士に求められる要素	理学療法士に求められる領域と倫理を学ぶ	森下 照大
2	理学療法の定義と歴史	理学療法(士)の定義の理解と歴史を説明し、これからの理学療法(士)の在り方について考える	〃
3	職能団体と協働職種	理学療法士に関与する組織と理学療法士の役割を学ぶ	〃
4	理学療法士に求められる要素	理学療法士における倫理観を含めた必要な能力について学ぶ	〃
5	理学療法士の関連法規	理学療法の業務に関連する法律や規定について学ぶ	〃
6	理学療法士の教育	理学療法士の卒前教育・臨床実習について学ぶ	〃
7	理学療法士のプロフェッショナルリズム	理学療法士の理想像を考え、形成する一助とする	〃
8	理学療法士の職域	理学療法士の職域や労働対価について学ぶ	〃
9	世界の理学療法	日本の理学療法と世界の理学療法の違いなどを学ぶ	〃
10	疾患と障害の分類	国際疾病分類(ICD)と国際障害分類(ICIDH)について理解を深める	〃
11	〃	国際生活機能分類(ICF)について理解を深める	〃
12	理学療法評価	医療・福祉分野で実際に行う評価について概要を理解する	〃
13	理学療法における治療	医療・福祉分野で実際に行う治療について概要を理解する	〃
14	理学療法の流れ	医療・福祉分野で実際に行う理学療法の関連性をまとめる	〃
15	障がい受容と幸福・まとめ	障がい受容について学び、また幸福度について理解を深める	〃

【授業時間外の学習】その日のうちに復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容をノートにまとめておくこと。十分な理解を得るためには予習復習には、2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず教科書・配付資料およびタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問すること。

【オフィスアワー】月曜日 17時から 17時30分(本館事務室前)

【科目名】基礎理学療法学 I

【教員名】松浦 康、池住 祐哉、北田 功、藤井 奈美、松島 史弥

【教員の実務経験】■有(理学療法士として実務経験のある教員が、臨床現場での基礎的な理学療法を教授する。)

□無

【授業方法】■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・1年・前期

【必/選・単位数(時間数)】必修・2単位(60時間)

【授業概要と目的】理学療法学の基礎知識について広く学び、理学療法全体の概要をつかむ事を目的とする。

【到達目標】理学療法に必要な基礎的な知識・技術の概要を理解できる。

【教科書】吉尾雅春、横田和彦編集：標準理学療法学 運動療法学総論 第5版. 医学書院, 2023.

吉尾雅春、横田和彦編集：標準理学療法学 運動療法学各論 第5版. 医学書院, 2023.

適宜資料配付・配信

【参考書等】

内山靖編：標準理学療法学 基礎理学療法学. 医学書院, 2006.

細田多恵等編：理学療法ハンドブック 改訂第4版. 共同医書出版社, 2010.

石川齊等編：図解理学療法技術ガイド 第4版. 文光堂, 2014.

内山靖編：リハベーシック薬理学・臨床薬理学. 医歯薬出版, 2020.

鶴見隆正ほか編：標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第6版. 医学書院, 2021.

【成績評価】■定期試験(60%) □小テスト ■課題レポート(20%) ■その他(実技20%)

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	コミュニケーション学	観察することを学ぶ	池住 祐哉
2	〃	表現することを学ぶ	〃
3	〃	価値観の違いを学ぶ	〃
4	〃	協力することを学ぶ①コンセンサスゲーム	〃
5	〃	協力することを学ぶ②コンセンサスゲーム	〃
6	理学療法とは	具体的な理学療法の内容について 理学療法の対象となる疾患について	松浦 康
7	運動とは	随意運動と運動制御の生理	〃
8	関節について	関節の構造と運動	〃
9	筋力について	筋と筋収縮	〃
10	〃	鍛える方法を考える	〃
11	運動負荷の指標	運動と呼吸	〃
12	〃	運動と循環	〃
13	運動負荷の指標	運動と代謝	〃
14	姿勢について	自分自身の身体を姿勢の概念から知る	〃
15	姿勢観察	臥位、坐位、立位における姿勢の観察を行う	〃

16	日常生活活動の 総論・基礎	日常生活動作を知る	藤井 奈美
17	〃	起居動作を知り、介助方法を学ぶ	〃
18	〃	移乗動作を知り、介助方法を学ぶ	〃
19	〃	〃	〃
20	〃	実技試験	〃
21	中枢神経 総論	中枢神経を知る ①	松島 史弥
22	〃	中枢神経を知る ②	〃
23	運動と学習	運動の生理と学習を知る ①	〃
24	〃	運動の生理と学習を知る ②	〃
25	〃	運動の生理と学習を知る ③	〃
26	運動療法 総論	運動の種類、運動療法の基本的な方法の理解	北田 功
27	関節可動域制限に 対する運動療法	運動療法を行う上での関節機能の理解、関節可動域制限に対する運動療法の基本を知る	〃
28	〃	関節可動域制限に対する運動療法の実施	〃
29	筋力増強運動	筋力強化の原則、筋力増強のメカニズムの理解	〃
30	〃	筋力増強の負荷設定を実施	〃

【授業時間外の学習】講義後は、授業の復習を行う。他科目における内容と関連するものについては、合わせて復習を行う。予習及び復習には各2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】受講に際しては、タブレットを持参する事。また、テーマによって指示された教材を持参する事。

【オフィスアワー】

池住：毎水曜日 17時から 17時30分(本館事務室前)

松浦：毎水曜日 17時から 17時30分(本館事務室前)

北田：毎木曜日 17時から 17時30分(本館事務室前)

藤井：毎水曜日 17時から 17時30分(本館事務室前)

松島：毎水曜日 17時から 17時30分(本館事務室前)

【科目名】基礎理学療法学 I

【教員名】松浦 康、池住 祐哉、松島 史弥

【教員の実務経験】■有(理学療法士として実務経験のある教員が、臨床現場での基礎的な理学療法を教授する。)

□無

【授業方法】■講義 ■演習 □実習 □発表 □見学

【学科・学年・期】理学療法学科・1年・後期

【必/選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】理学療法学の基礎知識について広く学び、対人援助職としての接し方や各領域における病態と運動療法をはじめとする理学療法を理解する。

【到達目標】理学療法に必要な各種疾患の知識・技術の概要を理解できる。

【教科書】

吉尾雅春、横田和彦編集：標準理学療法学 運動療法学総論 第5版。医学書院，2017。

吉尾雅春、横田和彦編集：標準理学療法学 運動療法学各論 第5版。医学書院，2017。

適宜資料配付・配信

【参考書等】

内山靖編：標準理学療法学 基礎理学療法学。医学書院，2006。

石川齊等編：図解理学療法技術ガイド 第4版。文光堂，2014。

内山靖編：リハベーシック薬理学・臨床薬理学。医歯薬出版，2020。

【成績評価】■定期試験(70%) □小テスト ■課題レポート(30%) その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	持久力増強運動	持久力の評価、持久力増強運動の理解 ①	松島 史弥
2	〃	持久力の評価、持久力増強運動の理解 ②	〃
3	協調性運動	協調性運動、協調性運動障害の運動療法の理解	〃
4	運動と神経	運動を制御する神経機構の理解 ①	〃
6	〃	運動を制御する神経機構の理解 ②	〃
7	バランス障害に対する運動療法	バランスとはなにか考える。	池住 祐哉
	〃	バランス障害の評価と運動療法の理解	〃
	痛みに対する運動療法	痛みの定義と原因、痛みに対する運動療法の理解	〃
8	〃	側彎症の運動療法	〃
9	切断の運動療法	切断の運動療法	〃
10	筋骨関節疾患の運動療法	骨折・脱臼の運動療法	松浦 康
11	〃	膝関節の靭帯損傷に対する運動療法	〃
12	〃	膝関節の半月板損傷に対する運動療法	〃
13	〃	腱断裂の運動療法(腱板断裂)	〃
15	〃	腱断裂の運動療法(アキレス腱断裂)	〃

【授業時間外の学習】講義後は、授業の復習を行う。他科目における内容と関連するものについては、合わせて復習を行う。

【履修条件・注意事項】受講に際しては、タブレットを持参する事。また、テーマによって指示された教材を持参する事。

【オフィスアワー】

松浦：毎週水曜日 17時から 17時30分(本館事務室前)

池住：毎週水曜日 17時から 17時30分(本館事務室前)

松島：毎週水曜日 17時から 17時30分(本館事務室前)

【科目名】理学療法評価学 I

【教員名】松島 史弥

【教員の実務経験】 ■有(理学療法士として実務経験のある教員が、理学療法士に必要な理学療法評価法の基本的な知識と技術について講義を行う。)

□無

【授業方法】 ■講義 □演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・1年・前期

【必／選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】理学療法士に必要な理学療法評価法の基本的な考え方と知識および技術について理解する。

【到達目標】学生は理学療法士に必要な評価の知識や技術を習得し臨床で正確に実施できる。

【教科書】

潮見泰藏, 下田信明著: PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版. 羊土社, 2020.

【参考書等】松澤正, 江口勝彦著: 理学療法評価学 改訂第6版. 金原出版, 2018.

【成績評価】 ■定期試験(80%) ■小テスト(20%) □課題レポート □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	総論 I	理学療法評価とは(講義)	松島 史弥
2	一般的評価事項 I	問診、情報収集 I (講義)	〃
3	一般的評価事項 II	問診、情報収集 II	〃
4	一般的評価事項 III	Vital sign の検査 I	〃
5	形態測定 I	肢長について I	〃
6	形態測定 II	肢長について II	〃
7	形態測定 III	周径について I	〃
8	形態測定 IV	周径について II	〃
9	関節可動域測定 I	関節可動域について(講義)	〃
10	関節可動域測定 II	上肢測定について I	〃
11	関節可動域測定 III	上肢測定について II	〃
12	関節可動域測定 IV	下肢測定について I	〃
13	関節可動域測定 V	下肢測定について II	〃
14	関節可動域測定 VI	頸・体幹測定について	〃
15	関節可動域測定 VII	頸・体幹測定について	〃

【授業時間外の学習】その日のうちに復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容をノートにまとめておくこと。十分な理解を得るためには予習および復習には、2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義には基本的に事前に実習服に着替えて出席すること。また、身だしなみについても講義内で指示された内容を守ること。講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず配付資料およびタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問すること。

【オフィスアワー】水曜日 17時から 17時 30分(本館事務室前)

【科目名】理学療法評価学 I

【教員名】森下 照大、藤井 奈美、松島 史弥

【教員の実務経験】 ■有(理学療法士として実務経験のある教員が、理学療法士に必要な理学療法評価法の基本的な知識と技術について講義を行う。)

□無

【授業方法】 ■講義 □演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】必修・2単位(60時間)

【授業概要と目的】理学療法士に必要な理学療法評価法の基本的な考え方と知識および技術について理解する。

【到達目標】学生は理学療法士に必要な評価の知識や技術を習得し臨床で正確に実施できる。

【教科書】

潮見泰藏，下田信明著：PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション基礎評価学 第2版．羊土社，2020.

津山直一，中村耕三訳：新・徒手筋力検査法 原著第10版．協同医書出版，2020.

三浦靖史ほか編集：PT・OTのための画像評価学テキスト．文光堂，2022.

【参考書等】松澤正，江口勝彦著：理学療法評価学 改訂第6版．金原出版，2018.

【成績評価】 ■定期試験(80%) ■小テスト(20%) □課題レポート □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	筋力評価	筋力検査 総論 ①(講義)	松島 史弥
2	〃	筋力検査 総論 ②(講義)	〃
3	〃	筋力検査 1(上肢)	〃
4	〃	〃 2(〃)	〃
5	〃	〃 3(〃)	〃
6	〃	〃 4(〃)	〃
7	〃	〃 5(〃)	〃
8	〃	〃 6(〃)	〃
9	〃	〃 7(〃)	〃
10	〃	〃 8(下肢)	〃
11	〃	〃 9(〃)	〃
12	〃	〃 10(〃)	〃
13	〃	〃 11(〃)	〃
14	〃	〃 12(〃)	〃
15	〃	〃 13(〃)	〃
16	〃	〃 14(〃)	〃
17	〃	〃 15(体幹)	〃

18	〃	〃 16(〃)	松島 史弥
19	〃	〃 17(頸部)	〃
20	〃	〃 18(顔面)	〃
21	反射検査	反射検査 総論	森下 照大
22	〃	〃 正常反射①	〃
23	〃	〃 正常反射②	〃
24	〃	〃 病的反射	〃
25	感覚検査	感覚検査 総論	〃
26	〃	〃 表在感覚①	〃
27	〃	〃 表在感覚②	〃
28	〃	〃 深部感覚	〃
29	医用画像の評価	理学療法に関連する画像評価	藤井 奈美
30	〃	X線・CT・MRI 画像について	〃

【授業時間外の学習】 その日のうちに復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容をノートにまとめておくこと。十分な理解を得るためには予習および復習には、2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 講義には基本的に事前に実習服に着替えて出席すること。また、身だしなみについても講義内で指示された内容を守ること。講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず配付資料およびタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問すること。

【オフィスアワー】 水曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

【科目名】基礎理学療法治療学

【教員名】森下 照大

【教員の実務経験】■有(理学療法士として実務経験のある教員が、理学療法治療学に必要な医療的内容に関する講義を行う。)

□無

【授業方法】■講義 □演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・1年・後期

【必/選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】理学療法の基本的な一連の流れと治療方法について講義と演習を行う。また、理学療法の対象となる代表的な疾患についての治療の考え方や実施方法について理解する。

【到達目標】

1. 理学療法の基本的な一連の流れと治療方法について説明できる。
2. 理学療法の対象となる代表的な疾患についての治療方法を説明できる。

【教科書】なし 適宜資料配付

【参考書等】

岩崎洋著：脊髄損傷理学療法マニュアル 第3版. 文光堂, 2020. (eBook)

石川齊[ほか]編：図解 理学療法技術ガイド 第4版. 文光堂, 2014. (eBook)

【成績評価】■定期試験(100%) □小テスト □課題レポート □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	基本的な理学療法の流れ	基本的な理学療法の流れについて理解する。	森下 照大
2	〃	病態の理解、理学療法評価および基本的理学療法の概要について理解する。	〃
3	病態の理解	理学療法に必要な病態の理解 ①	〃
4	〃	理学療法に必要な病態の理解 ②	〃
5	理学療法評価	基本的理学療法に必要な、代表的な理学療法評価 ①	〃
6	〃	基本的理学療法に必要な、代表的な理学療法評価 ②	〃
7	〃	基本的理学療法に必要な、代表的な理学療法評価 ③	〃
8	基本的理学療法	基本的理学療法 概説	〃
9	〃	基本的理学療法 プログラム立案	〃
10	〃	基本的理学療法 実施方法 ①	〃
11	〃	基本的理学療法 実施方法 ②	〃
12	〃	基本的理学療法 プログラム変更と修正	〃
13	疾患別理学療法	疾患別理学療法 ①	〃
14	〃	疾患別理学療法 ②	〃
15	〃	疾患別理学療法 ③	〃

【授業時間外の学習】その日のうちに復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容をノートにまとめておくこと。十分な理解を得るためには予習および復習には、各1時間程度を要する。演習・実技を行うので、自主練習を行うようにすること。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず指定された資料及びタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】水曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

【科目名】 老年期障害理学療法学

【教員名】 池住 祐哉

【教員の実務経験】 ■有(理学療法士として実務経験のある教員が、生理学的作用から使用方法・臨床での応用に至るまでを教授する。)

□無

【授業方法】 ■講義 □演習 □実習、実験、実技

【学科・学年・期】 理学療法学科・1年・後期

【必／選・単位数(時間数)】 必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】 我が国における高齢者人口の占める割合は年々増加している。理学療法の対象の中心が高齢者に移り変わっている事は明白である。多様な疾患を合併・既往としてのもっている高齢の症例に対する知識を身につける事を目的とする。(福祉住環境コーディネーター2級資格取得を目指す内容を含む)

【到達目標】 高齢者の身体状況と高齢者に多い疾患を理解し、住環境整備を学ぶ。

【教科書】 福祉住環境コーディネーター検定試験 2級 公式テキスト 改訂7版。

【参考書等】 池添冬芽編：理学療法学テキスト 高齢者の理学療法学. メジカルビュー社, 2019.

【成績評価】 ■定期試験(80%) □小テスト ■課題レポート(20%) □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	高齢者や障害者 社会状況と住環 境コーディネー ターの意義	高齢者を取り巻く社会状況と住環境	池住 祐哉
2		〃	〃
3		福祉住環境コーディネーターの役割と機能	〃
4		〃	〃
5	障害のとらえ方 と自立支援のあ り方	障害のとらえ方	〃
6		リハビリテーションと自立支援	〃
7		高齢者の心身の特性	〃
8		障害者の心身の特性	〃
9		在宅介護での自立支援のあり方	〃
10		高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備	〃
11	疾患別・障害別 にみた不便・不 自由と福祉住環 境整備の考え方	〃	〃
12		〃	〃
13		疾患別にみた福祉住環境整備	〃
14		〃	〃
15		〃	〃

【授業時間外の学習】 講義後の、十分な理解を得る為の復習には、各回1時間程度を要する。予習及び復習に各1時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】 授業中態度等については厳しく指導する。

【オフィスアワー】 毎水曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

【科目名】スポーツ障害理学療法学

【教員名】松浦 康

【教員の実務経験】 有(理学療法士として実務経験のある教員が、スポーツ理学療法に必要な医療的内容に関する講義を行う。)

無

【授業方法】 講義 演習 実技

【学科・学年・期】理学療法学科・1年・後期

【必/選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】スポーツ理学療法についての知識を深めてもらうために、実技を中心に授業を行う。また身体運動の理解を深めるために特殊手技であるPNFを学び、スポーツ動作へ結びつける。

【到達目標】学生は臨床で使う技術の理解ができる。

【教科書】松尾善美編：高齢者に対する予防的運動介入。文光堂，2022。

【参考書等】

澤尚ほか編：スポーツ外傷学I。医歯薬出版，2001。

宮永豊ほか編：アスレチックトレーナーのためのスポーツ医学。文光堂，1998。

【成績評価】 定期試験(100%) 小テスト 課題レポート その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	総論①	スポーツリハビリテーションについて	松浦 康
2	総論②	スポーツ現場に必要なスポーツ医療とは	〃
3	総論③	筋力トレーニング理論	〃
4	総論④	RICEについて	〃
5	技術論①	マッサージについて：理論・種類・方法	〃
6	技術論②	上肢・下肢に対するマッサージ実技	〃
7	技術論③	頸部・体幹に対するマッサージ実技	〃
8	技術論④	ストレッチングについて：理論・種類・方法	〃
9	技術論⑤	ストレッチング実技：静的ストレッチング	〃
10	技術論⑥	ストレッチング実技：動的ストレッチング	〃
11	技術論⑦	ストレッチング実技：IDストレッチング	〃
12	技術論⑧	テーピング実技：テーピング使用方法	〃
13	技術論⑨	テーピング実技：膝関節	〃
14	技術論⑩	テーピング実技：足関節	〃
15	技術論⑪	高齢者に対する運動介入	〃

【授業時間外の学習】授業実施日に復習を行い、講義で指摘された専門用語を確認するとともに内容を自分なりにノートにまとめておくこと。実技を行うので、各自実技練習を行うようにする。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず指定された資料及びタブレットを持参すること。疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】水曜日 17時から17時30分(本館事務室前)

【科目名】見学体験実習

【教員名】臨床実習指導者

【教員の実務経験】 ■有(臨床実習指導者(理学療法士)が理学療法士に必要な知識および技術について指導を行う。)

□無

【授業方法】 □講義 □演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・1年・前期

【必/選・単位数(時間数)】必修・1単位(45時間)

【授業概要と目的】実習期間は、前期5日間とする。臨床実習施設において、学生は、臨床実習指導者(理学療法士)のもとで、理学療法士の業務を見学し、将来理学療法士として患者に接する際に必要な基本的知識・技術・態度を身につけることを目的とする。

【到達目標】学生は、理学療法士としての適性能力や必要な基礎知識を理解することができる。

【教科書】実習の手引き

【参考書等】なし

【成績評価】 □定期試験 □小テスト □課題レポート ■その他(実習施設評価 80%、提出物 20%)

【授業計画】

実習名	実習期間
見学体験実習	令和8年7月中(5日)

【授業時間外の学習】臨床実習指導者(理学療法士)に指導および指示された内容について予習と復習を行う。

【履修条件・注意事項】実習の手引き参照

【オフィスアワー】学校(担任)への電話連絡

【科目名】基礎評価実習

【教員名】臨床実習指導者

【教員の実務経験】■有(臨床実習指導者(理学療法士)が理学療法士に必要な知識および技術について指導を行う。)

無

【授業方法】講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】理学療法学科・1年後期・2年前期

【必/選・単位数(時間数)】必修・2単位(1年後期45時間・2年前期45時間)

【授業概要と目的】実習期間は、1年後期は5日間、2年前期は5日間とする。学生は見学体験実習で学んだ内容とその後の学習で理解した知識と技術を活かし、臨床実習施設において、臨床実習指導者(理学療法士)のもとで、理学療法士のより専門的な業務を見学・模倣し、将来理学療法士として患者に接する際に必要な実践的な知識・技術・態度を身につけることを目的とする。なお、実習形態は参加型とする。

【到達目標】学生は福祉の現場(通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーション)を体験することにより、医療従事者としての規律の遵守と、その実習施設における事業体系や目的、およびリハビリテーションチームとしての役割を理解することができる。

【教科書】実習の手引き

【参考書等】なし

【成績評価】定期試験 小テスト 課題レポート その他(実習施設評価 80%、提出物 20%)

【授業計画】

実習名	実習期間
基礎評価実習	令和8年11月中(5日)
	令和8年6月～7月中(5日)

【授業時間外の学習】臨床実習指導者(理学療法士)に指導および指示された内容について予習と復習を行う。

【履修条件・注意事項】実習の手引き参照

【オフィスアワー】学校(担任)への電話連絡